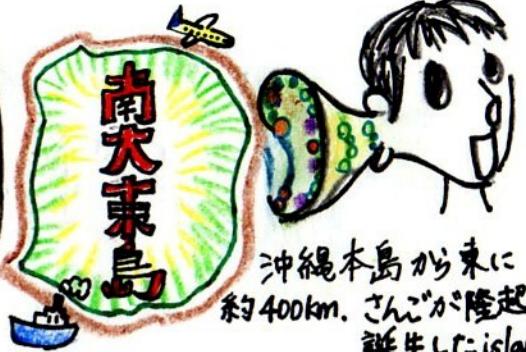


南大東島の旅

2004年、10月13日～29日。2度目の南大東島。



沖縄本島から東に
約400km。さんが隆起して
誕生したisland

台風

23号

島の海、サトウキビ畑を吹き荒らし、本土に大きな被害をもたらしたタイフーン。いつもの海色は消え、色のない海へと変貌！その中で、高なる波に一筋サーフグリーンのラインが見えるのは神秘的。* 目を閉じ、音のみの世界は、コ"~~~~~"と地響きのような、飛行機の音のよう、コワサが迫り来る。島の人、島が揺れていよう！ 実際、南大東気象台の地震計の針が振れている。

島民に
きく

「島を音で表すと？！」『男波』→砂浜が全く無く、ボツボツした岩肌に囲まれた島の形、雰囲気を表したことある男の人『島は上からみたらふつうなんだけど、所々地下にドドドドって入っていくる鐘乳洞がある。小さいけど、人にとっては深くて大きい珍しい国』とある小学1年の女の子



←島を横から見るとこんな感じ。



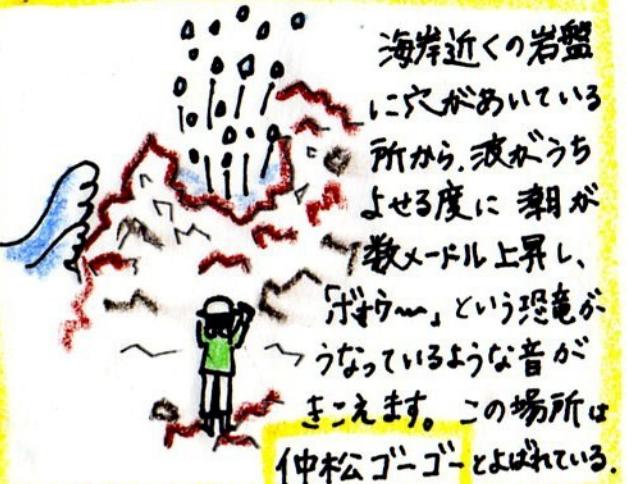
海と空の音が好きなお兄さんは、「空に音はきこませんが、見るものにも音を感じさせる力がある」と。全国を旅する星空探検家も絶賛！！

「コンコンコン」『何の音？』

毎日訪れていた大東神社。最後の日の午前中、いつもはきこえない不思議な音を耳にしました。池の奥の方からコンコンコンと木のようやわらかく丸いイメージの音 正体は？！



↑こんな地形なので、コンナ音もきます



大東ハ MIX Culture



四年のうた おきいて ©新垣民謡研究所

南大東島の音文化として見て聴いて楽しむれるものとして、沖縄から伝わってきた三線とハナ島から伝えられた太鼓があります。お祭りやお祝いの場で、披露されることが多い達の音楽センスは光るものが★
新垣民謡研究所での練習をきかしてもら正在と、

こんな絵がうかんできました→

三線の独特的なメロディー、高らかな木の音が飛び出す三板
タンバリンや小太鼓そして笑顔で歌うこと達の声。
次は、島の人達がどんなかもの悲しくなるというハナ太鼓
大東で育まれた迫力の大東太鼓の音描きにtryしてみます。

おじさんが教えてくれた 風感 風セツ 語。

大阪と大東、地域によって吹く風が違う。この風を
音で感じる“風感”を人はもっている。島の自然の
音リズムを太鼓を叩く時etcに表現する。これが自分なりの“風セツ”だ。と、新しいコトバを紡ぎ出してくれました。

南大東島、サヨナラ...

帰りは初めて船に乗りました。ブイが壊れたとかで出港は
夜11時頃。ライトアップされた港で牛のえさや燃料タンク等の
荷が積みおかされ、エンジ音が響く船上にクレーンで吊り上げ
られて乗り込みます。甲板に出ると、隣にいたおじさんの元へ。
仕事仲間からテープか! 私もつかみます。ヒュルヒュルヒュル~ハシッ!
おじさんはもう大東に来るのは最後だと、島眺め続けました。私は「また来るよ」と眺め続けました。いつになつてもない気がしました。

